私たちの町の文化財

■第1　話　城山上代町官軍墓地

城山上代町にある市営城山墓園内には、西南戦争で亡くなった7基の官軍兵士墓があります。墓標の正面には戦死者の階級・氏名があり、右側面には「海軍常備艦清輝號乗組」左側面には「明治十年二月廿一日戦死於肥後国飽田郡天社」とあります。左側面にはさらに、戦死者の出身地と享年が記されています。年齢は20代が多く、階級は一等水兵から四等水兵までみられます。明治10年(1877)2月21日は、まさに薩摩軍が鹿児島から挙兵して6日後の出来事で、熊本城攻防戦が開始された初日でもありました。清輝號とは、明治維新後に初めて造られた国産軍艦で、西洋の船舶技術を導入した最新鋭艦でした。

この艦の艦長であった井上良馨少佐は、熊本城から黒煙があがる事態を、熊本沖から発見しました。井上は戦況を把握するために、小笠原恒通中尉、坂本俊一少尉と水兵12名を熊本城下に向かわせました。小笠原中尉以下13名は、松生島に上陸し城下へ向かう途中、現在の熊本市松尾町付近で薩摩軍と交戦状態になり、この時、官軍7名が命を落とすこととなりました。城山上代町官軍墓地の墓標は、刻まれた文字が容易に判別できるほど状態が良く残っています。一度城山墓園を訪れて、当時の状況を思い浮かべてみてはいかがでしょうか。

熊本市役所文化振興課　藤島志考氏

清輝號って、明治維新後、初めて国産軍艦として横須賀造船所で建造され、日本艦船として初めてヨーロッパへ航海した船だよ。

平成29年1月　みにくま第165号に掲載